

研究タイトル：

地域・交通マネジメント支援に関する実践的研究

氏名：	伊勢 昇 / ISE Noboru	E-mail：	ise@wakayama-nct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	土木学会, 交通工学研究会, 日本都市計画学会, EASTS, 交通科学研究会		



キーワード：生活支援, 地域公共交通, PI, 社会調査・統計解析, 地域再生・活性化, 交通安全, 土木教育

技術相談

提供可能技術：

- ・買い物弱者のための生活支援サービス導入・改善
- ・地域公共交通の確保・維持・改善
- ・住民協働(PI)によるまちづくり
- ・計画策定及び施策評価のための社会調査と統計解析(効果計測・将来予測・需要推計等)

研究内容： 地域・交通マネジメント支援に関する実践的研究

■ 買い物弱者のための生活支援サービス導入・改善

地域に合った買い物支援策を提案するためには、地域レベルでの①買い物弱者人口及び②買い物弱者の各種買い物支援策に対する需要量の把握が必要不可欠である。本研究室では、地域レベルでの①買い物弱者人口推計モデルならびに②買い物弱者の各種買い物支援策需要推計モデルの構築と、それらを組み込んだ③買い物支援策検討フレームの確立を目指している。

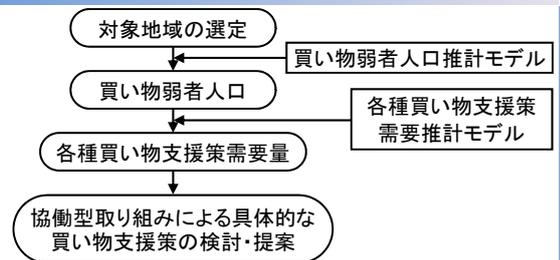


図-1 買い物支援策検討フレーム

■ 地域公共交通の確保・維持・改善

大阪府河内長野市、大阪府岸和田市、大阪府和泉市、和歌山県日高川町、北海道今金町等において地域公共交通の確保・維持・改善に関する業務を遂行する中で、本研究室では、①郊外住宅団地における人口予測モデルの構築とそれに基づく人口及びバス需要予測フレームの確立、②持続可能な地域公共交通の実現(合意形成、協働意識の醸成、利用行動の促進)に資する協働型地域公共交通計画プロセスでの提供情報の解明、③公共交通施策の提案と効果計測等、様々な研究に取り組んでいる。



写真-1 協働型取り組み風景と実現した乗合タクシー

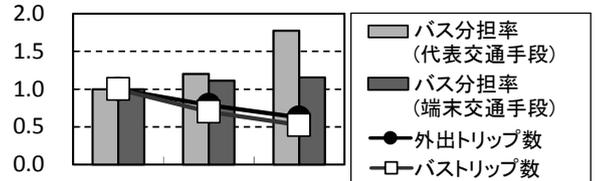


図-2 バス需要予測結果

■ 行政提案型協議会方式による新たな交通安全施策の導入と評価

兵庫県西宮豊中線の交通安全施策の検討業務において、地区住民、行政、警察、企業、学識経験者で構成された協議会での議論に基づいて交通安全施策を検討し、その効果計測のための社会実験を実施した。本研究室では、錯綜危険度評価式を提案し、それに基づき算出した施策前後の危険指標値から提案施策の安全性向上効果について定量的に検証した。

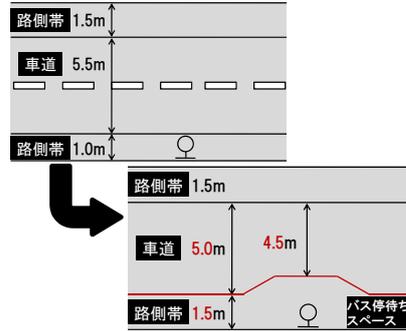


図-3 交通安全施策前後の道路空間配分

危険指標値(指数)

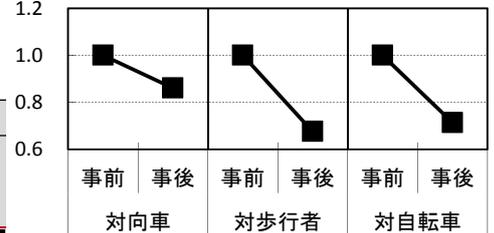


図-4 錯綜危険度評価式に基づく交通安全施策の効果計測結果(二者錯綜)

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
統計解析ソフトウェア(Excel アドインソフト、LIMDEP/NLOGIT 等)	振動レベル計(RION)
地理情報システム(ArcGIS)	
四輪実車型ドライブ・シミュレータ(FORUM8)	
3次元リアルタイム VR シミュレーションソフトウェア(FORUM8)	
騒音計(RION)	